

ナッシュビル宣言

「知れ。【主】こそ神。主が私たちが造られた。私たちは主のもの…」 — 詩篇 100:3

前文

21世紀の幕が開け、福音派のクリスチャンは歴史的な転換期を迎えている。

西洋文化は、ますますポスト・キリスト教の様相を呈する中で、人間とは何かという定義の大幅な修正に乗り出している。全般的に見て、この時代の精神は、もはや神が人間に対して持つておられる計画の美しさを見分けることも、喜ぶこともできなくなっている。多くの人は、神がご自分の栄光のために人間を創造されたことを否定し、人間に対する神のすばらしい目的の中には、人間を人格的にも、肉体的にも男と女に造ることも含まれることを否定している。人間の男と女というアイデンティティーは、神の美しいご計画の一部ではなく、個人が自分で決定するものだという考えが一般的になっているのである。このように、被造物に対する神のすばらしい計画を通して、なくなることのない満ち満ちた喜びを得る道が、近視眼的な別の道に取って代わられている。この道を行けば、遅かれ早かれ、人間生活は破滅し、神の名を汚すことになる。

この時代の世俗的精神は、キリスト教会に大きな課題を突きつけている。主イエス・キリストの教会は、聖書的な確信、明快さ、勇気を失い、時代の精神に溶け込み、同化してしまうのだろうか。それとも、いのちのこぼを堅く守り、イエスから勇気をいただき、イエスの道が人の生きる道であると臆することなく宣言するのだろうか。破滅に向かってまっすぐ進んでいるように見える世界に対して、時勢に逆らう証しを明確に保ち続けることができるのだろうか。

私たちは、この世代における忠実さとは、この世界の本当の物語と、その中に置かれている私たちの立場、特に男と女としての立場をもう一度宣言することだと確信している。聖書は、神は唯一であり、この方だけが創造主であり、すべての主であると教えている。すべての人は、この方だけに喜びの感謝と心からの賛美をささげ、完全な忠誠を誓う義務を負っている。そうすることは、神を称える方法であるだけでなく、自分自身を知る方法でもある。創造主を忘れることは、私たちが誰であるかを忘れることだ。創造主は、ご自分のために私たちが造られたからである。私たちは、人間を造られた方を本当の意味で知ることなしに、自分自身を本当の意味で知ることができない。私たちは自分で自分を作ったのではない。私たちは自分自身のものではない。男性と女性という私たちのアイデンティティーは、本質的に神によって与えられている。神が造られた状態を否定して別のものになろうとするのは、愚かであるばかりでなく、絶望的な試みである。

私たちは、被造物に対する神の計画と救いの方法は、神に最も偉大な栄光をもたらし、私たちに最も大きな益をもたらすものであると信じる。神のすばらしい計画は、私たちに最大限の自由を与えてくれる。イエスは、ご自分が来られたのは私たちがいのちを得るため、しかも、あふれるばかりに得るため

だと言われた。イエスは私たちの味方であって、敵ではない。それゆえ、私たちはキリストの教会に仕え、聖書に示された人間のセクシュアリティに対する神のすばらしい目的を公に証しすることを願い、以下の点に同意し、また否定する。

第1条

私たちは、神が作った結婚は、性的で、出産を伴い、生涯にわたる契約関係であり、一人の男と一人の女が夫と妻として一つになるものであること、またキリストとその花嫁である教会の間に結ばれた契約に基づく愛を象徴していることに**同意する**。

私たちは、神が結婚を同性愛、一夫多妻、多夫多妻の関係となるように計画されたという考えを否定する。また、結婚が神の前で結ばれる契約ではなく、単なる人間の契約であるという考えも**否定する**。

第2条

私たちは、神が明らかにされたすべての人に対する御心は、婚外では純潔を守り、婚内では貞操を守ることであるということに**同意する**。

私たちは、愛情や、願望、約束があることで、婚前または婚外の性交が正当化され、さまざまな形の性的不道徳が正当化されるという考えを**否定する**。

第3条

私たちは、神が最初の人間であるアダムとエバをご自分のかたちに創造され、人として神の前で等しい存在とし、男と女として区別されたことに**同意する**。

私たちは、神によって定められた男女間の違いによって、尊厳や価値において両者が等しい存在ではなくなるという考えを**否定する**。

第4条

私たちは、神が定めた男女間の違いは、神の創造時の計画を反映しており、人間の益と人間の繁栄のために意図されたものであることに**同意する**。

私たちは、このような違いが墮落の結果である、あるいは乗り越えるべき悲劇であるという考えを**否定する**。

第5条

私たちは、男女の生殖構造の違いは、人が男または女として自己認識を持つという神の計画に不可欠なものであることに**同意する**。

私たちは、身体的な異常や心理的な状態により、生物学的な性別と男または女としての自己認識の間に神が設けたつながりが無効になるという考えを**否定する**。

第6条

私たちは、身体に性分化疾患を伴って生まれた者が、神のかたちに造られていること、また神のかたちに造られた他のすべての人と等しい尊厳と価値を持っていることに**同意する**。私たちの主イエスは、「母の胎から独身者として生まれた人たち」ということばに表れているように、そのような人々がいることを認識しておられる。他のすべての人とともに、そうした人々はイエス・キリストの忠実な信者として歓迎され、知っている範囲において生物学的な性を受け入れるべきである。

私たちは、生物学的な性別が曖昧であるために、キリストに喜んで従い、実りある人生を送ることができなくなるという考えを**否定する**。

第7条

私たちは、男または女としての自己認識は、聖書に啓示されている創造と贖いに対して神が持っておられる聖なる目的に従って定義されるべきであることに**同意する**。

私たちは、同性愛者やトランスジェンダーの自己認識を持つことが、創造と贖いに対して神が持っておられる聖なる目的に沿ったものだという考えを**否定する**。

第8条

私たちは、同性に性的魅力を感じる人々が、すべてのクリスチャンと同様に、純潔を守って日々を歩む中で、イエス・キリストにある信仰によって、神に喜ばれる豊かで実りある人生を送ることができることに**同意する**。

私たちは、同性に性的魅力を感じる事が、神の創造当初からあった自然の一部で良いものであるという考えや、そういう人は福音の希望の外に置かれているという考えを**否定する**。

第9条

私たちは、罪が性欲をゆがめ、人を結婚の契約から遠ざけて性的不道徳に向かわせること、またこのゆがみには異性愛と同性愛の不道徳の両方が含まれることに**同意する**。

私たちは、性的不道徳に向かわせる欲求が永続的なパターンで押し寄せてくるのであれば、性的に不道徳な行動をとったとしても正当化されるという考えを**否定する**。

第10条

私たちは、同性愛の不道徳やトランスジェンダリズムを認めることは罪に加担することであり、そのようなことを認めることは、キリスト教の信仰と証しから本質的に離れることであることに**同意する**。

私たちは、同性愛の不道徳やトランスジェンダリズムを認めるかどうかは道德上の問題ではないとか、誠実なクリスチャンの間では多様な見解を認めるべきだという考えを**否定する**。

第11条

私たちは、男または女として、互いについて、また互いと語り合うときを含め、常に愛をもって真理を語る義務を負っていることに**同意する**。

私たちは、ご自分のかたちに似せた人を男と女として造られた神の計画をないがしろにする話し方をするよう義務付ける考えを**否定する**。

第12条

私たちは、キリストにある神の恵みによって、あわれみ深い赦しと変革の力が与えられること、またこの赦しと力によって、イエスに従う者は罪深い欲望を捨て、主にふさわしい歩みができることに**同意する**。

私たちは、キリストにある神の恵みは、すべての性的な罪を赦すには不十分であり、性的な罪に誘惑を感じるすべての信者に聖く生きる力を与えるには不十分であるという考えを**否定する**。

第13条

私たちは、キリストにある神の恵みによって、罪人がトランスジェンダーとしての自己認識を捨てること
が可能になること、また神の忍耐によって、生物学的な性別と男または女としての自己認識を神が定
めた通りに結びつけて受け入れられるようになることに**同意する**。

私たちは、キリストにある神の恵みによって、神の啓示された御心と相容れない自己認識を持つことが
許されるという考えを**否定する**。

第14条

私たちは、キリスト・イエスが罪人を救うために世に来られたこと、そしてキリストの死と復活によ
り、罪を悔い改め、キリストだけを救い主、主、最高の宝と信じるすべての人に、罪の赦しと永遠のい
のちが与えられることに**同意する**。

私たちは、主の腕が短くて救えないとか、主の救いの手が届かないところにいる罪人が存在するという
考えを**否定する**。

参照聖書箇所

創1：26～28、2：15～25、3：1～24、出20：14、20：17、レビ18：22、20：13、申5：18、21、
22：5、士19：22、Ⅱサム11：1～12：15、ヨブ31：1、詩51：1～19、箴5：1～23、6：20～35、
7：1～27、イザ59：1、マラ2：14、マタ5：27～30、19：4～6、8～9、12、使15：20、29、ロマ
1：26～27、1：32、Ⅰコリ6：9～11、18～20、7：1～7、Ⅱコリ5：17、ガラ5：24、エペ4：15、20
～24、5：31～32、コロ3：5、Ⅰテサ4：3～8、Ⅰテモ1：9～10、15、Ⅱテモ2：22、テト2：11～
12、ヘブ13：4、ヤコ1：14～15、Ⅰペテ2：11、ユダ7

*参照聖書箇所は宣言の一部ではなく、参考のために後で追加されたものです。
*原文の意味を正確に伝えるために、訳文を改訂する場合がございます。

Nashville Statement – CBMW

<https://cbmw.org/nashville-statement/>